

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471200073		
法人名	特定非営利活動法人 オーバー		
事業所名	グループホーム ももたろう		
所在地	大分県豊後大野市清川町三玉686番地		
自己評価作成日	平成26年10月6日	評価結果市町村受理日	平成27年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4471200073&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 フェリス古国府壱番館1F
訪問調査日	平成27年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が利用者の家庭での行動・考えを常に意識し、家庭的な環境を作るよう努めている。利用者がしたい時にしたい事が出来るよう常に工夫し、また、それを可能にするための方法を常に模索している。
また、自然環境をいかし、外での活動を多く取り入れ、外出も多く行うよう心がけている。利用者家族もスタッフの一員としてとらえ、困った時等には協力してもらえ体制を整えている。本年9月からは、看護師も常勤で勤務するようになり、利用者の健康状態についてもより安心して過ごせるようになった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の志すビジョンの明確化と、地域社会での生活をより良く生きる営みの探求において、施設・地域住民・家族・旧地域住民・行政機関・医療機関・福祉関係等の垣根を越えた活動の斬新的な取り組みを特徴とします。現場主義をモットーに利用者の今を見つめ、ゆったり・じっくり寄り添う中で、利用者本位の支援の有り方、個々の思いの尊重と実践への過程、家族との交流に基づく相互理解と協調・協力関係づくりに励んでいます。利用者の暮らしぶりの向上を目指す営みにおいて、職員の就労環境にも着目しており、職員相互のチーム力アップに反映されている様子が伺えます。地域密着型施設としての発展的な施設運営の経過と、更なる施設の向上を目指す姿勢に共感します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念も継続で疲れている。利用者への対応に迷った時に、理念を思いだし行動するよう職員に指導している。	「理念に立ち返る」を基本姿勢とし、毎年、全職員間での見つめ直しが行われる中で、日常の業務における意識の周知と共有の支援体制が図られています。地域での暮らしの営み、その重要性に加味する家庭的な施設運営にも力を注いでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域行事には積極的に参加し、また、地域の方々が気軽に立ち寄れる環境を作るように努めている。	地域間相互の連携を支持しており、ご近所交流(野菜のおすそ分けとお茶飲み・鍋パーティー(駐車場)・少年野球への差し入れ)等を介した繋がりやの継続、専門知識の伝達や相談への対応、医療機関との漸進的な関係構築にも取り組んでいます。	個々の利用者の今を大切に捉える過程の中で、心地よく生きる暮らしを支援しています。「施設と実家」の枠を作らない地域社会の交流、その仕組みづくりへの漸進的な取り組み「今後の運営」に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域も高齢化が進み、地域の方からの相談も多くなってきている。地域の方が困ったときにはいつでも気軽に相談に来れるような環境作りに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容も施設の評価・報告にとどまらず、そこから今後のよりよい市の高齢者福祉についての話し合いまでに発展している。また、民生委員さんの参加により、地域との関係作りにも効果を発揮している。	利用者の尊厳と家族の頑張りを支える運営において、地域との相互交流、公共機関・医療機関との相互協力の仕組みを重視する関係づくり構築に向けた営みが伺えます。会議は貴重な場として、協調・協力的な体制づくりの一途と成り得ています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に連絡・相談できる体制を作り、協力体制を築いている。	運営推進会議での協議や日常的な相談を介し、市担当者や行政機関等との相互協力の体制づくりに積極的に取り組む中で、施設向上や地域協力への反映に思慮しており、その過程における課題の発見と、連携による見直しに努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体ケアは一切なし	法人として研修の重要性を支持しています。伝授と教授による職員間での相乗効果への営みや、継続研修(3ヶ月毎)による意識レベルの向上と、「聞く人が不安であれば虐待である」の姿勢において、家族への理解・協力にも取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に気がつきにくい言葉の虐待について職員には厳しく注意するよう指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所長が成年後見業務を行っており、施設内研修等で職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて提示し、家族が納得するまでの説明を行っている。これまで特に不満の声は聞かれない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・希望は必ず反映するよう努め、どうしたら反映できるかを職員で話し合い、実現につなげている。また、密な状況連絡をする事により、家族の意見を多く聞く努力をしている。	各々の思いの重要性と、支援の有り方に着目しています。ブログ(ホームページ)や面会・行事での交流により家族との共有認識と理解を深めており、家族ぐるみでの暮らしの運営に努める中で、利用者と家族間での思いの不一致に至っては、話し合いを大切に、個々の尊重と実践に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に副所長は現場にて業務し、職員の意見徴集を行い、状況を密に所長に報告し、職員が意見しやすい環境を整えている。また、職員会議はそのための重要な場となっている。	暮らし易さの気付きやアイデア等を大切に、現場主義(利用者や職員と幹部)による双方向的な支援が行われています。各々の職員による外部評価項目の記載を通じた意向の把握や、日常のコミュニケーションによる思いの受け留めに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に副所長は現場にて業務し、職員を観察しいつもとは違う表情等に早急に気付くように心がけている。作業環境についても同様である。そして、その報告を密に所長にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ多くの外部研修に職員が交代で参加し、職場内研修にて研修報告を行い、職員全員が研修内容を理解できるようにしている。また日頃の業務でも介護福祉士・看護師・認知症ケア専門士からの指導を受けながら業務している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	初任者研修等、他施設との連携で相互に研修派遣したりと、連絡協議会の継続が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族に見学や体験を自由にできるようにし出来るだけ、本人が納得して利用開始できるよう工夫・努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見を十分に聞いて、共に本人を介護する事を伝え、希望があれば出来るだけ叶えるよう努める事を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査を十分行い。話し合いも密にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族の一員との考えを徹底し、家族と協力しながら支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族もスタッフの一員との考えから、出来るだけ家族と協力しながらの支援に努めている。また、状況報告を出来るだけ密に行い、家族に共通の情報を持てるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族不在でも自宅訪問を行ったり、なじみの美容院の利用等、可能な限り実施している。本年度初めて地域のサロンに参加させていただいた。	利用者の馴染みの間柄や場所の把握、家族の思い(職員同伴での外出等)の尊重と実践において、継続的な支援が行われています。各地区のイベント情報の収集への取り組みや、サロンへの初参加の実績など、積極的な援助が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日、その時の状況に合わせた環境作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方への病院への様子伺い等を行い、最後まで付き合いをさせていただいている。また、利用者が他界後も家族が訪問してくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今、その瞬間を大切に、その人の希望する事の実現に向けて常に考え行動している。また、日常会話の中からの情報を逃さずれる事を心がけている。	理念を念頭に、利用者の心身的な状態や個性、折々の状況や思いの変化への気付きに努めており、全職員間の情報の共有と相互理解を深めています。家庭的な雰囲気を大切に、利用者間の良好的な関係支援や環境づくりに取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人から聞き取りを行い、また面会者からも情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身の状況を十分理解し、家政婦さんではない介護に心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人の意見を尊重しながら、職員全員で話し合い、必要があれば医療機関・市等にも相談している。また、職員会議時のみの話し合いだけでなく、本年度より2カ月に1回のケア会議を追加した。	隣接する小規模事業所との毎月の合同モニタリングでは、ケース記録・気付きノート等の活用による実践状況等の話し合いの営みを、会議においては、担当職員からの問題点の発信と協議、支援の周知に至る中で、計画策定に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付きの部分までの記入に努め、何でもノートを活用し、情報の共有に努めている。記録様式については市の指導監査でもモデルにしたいと提供を求められ、充実したものになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応は、法人の最大の特徴であり、その日、その時、その瞬間の対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年度、初めて地域のサロンに1名参加できた。施設に入ると本人も地域も離れる傾向にあり、地域の資源活用は今後の課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関はすべて家族・本人が決定し、その医療機関と十分な話し合いを行い、ターミナルまでの連携が出来るようにしている。	希望のかかりつけ医への受診と、協力医療機関との連携・仕組みづくりに向け、利用者本位の支援と、可能性を高める積極的な改善の姿勢が見られます。家族支援の受診においても、隔日で職員が同行し、心身状態の報告と把握に努めています。	個々の思いの尊重を基調とし、心身の健全な暮らしの向上を念頭に、今を大切に生きる援助への取り組みにおいて、医療と福祉との連携の拡大にも着目しており、今後の発展に益々の期待が持たれます。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本年度より看護師が常勤になり、より充実された。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はほぼ毎日の訪問をし、利用者に安心して頂けるよう心がけ、看護師等とも情報交換等の連携を取っている。また、認知症の悪化防止のため出来るだけ早い退院へ向け医療機関も協力してくれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	すでに何度かのターミナルケアを経験し、家族にもターミナルについて十分な説明ができるようになった。医療機関等とも連携しながら行っている。	終末期のケアは、24時間対応できる病院との協力体制を深め、医師と家族と職員を含めた相互理解と連携を培う施設運営に取り組んでいます。充実した個別対応・支援に向け、理念を基盤に職員間のチーム力を実践に繋げる姿勢が見られます。全職員がターミナルケアに求められる本質的なレベルアップに取り組む体制が強化されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度は、救命救急の訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は勿論のこと、日頃から避難場所への散歩で避難場所を利用者に確認したりと日常からの防災意識を高めるよう努めている。訓練には地域の方も参加してくれている。	安心・安全への支援として、避難場所を散歩コースに組み入れています。安全確保に向け、避難訓練・一斉メールによる呼び出し訓練、近隣地域との協力体制の整備、防災用品(雪や予想外の災害)にも対処出来るよう準備しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の経験者との尊重を常に持ち、ひとりの人としての尊重の気持ちがわかる言葉かけを常に意識している。	呼び方は、利用者の個性・家族の思いの尊重が図られています。介護している意識は「NG」とし、職員相互のチーム力を大切に、当たり前にならない・さりげない支援を基本に、羞恥心への配慮、自尊心を傷つけない援助に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定を最優先している。また、日常会話の中から本人の思いや希望を拾いださせるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	瞬間を大切にし、「ちょっと待って」をなくし、瞬間の希望にそえるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性利用者が多く、常に気遣っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を大切にし、個人の状況に合わせた食事を提供している。出来る方には一緒に準備・片づけを行ってもらっている。	個別対応(時間・場所)が図られる中で、職員と囲む食卓からは、介助・見守り・声掛けによる、楽しい食卓づくりへの支援の姿が見られます。外食へのこだわりにおいて、食に対する意欲向上の効果や誕生日の家族との喜びの交流を支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関にも相談しながら、本人に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の状況に合わせ、全員実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをチェックし、可能な限り、トイレでの排泄を心がけている。リハビリパンツの使用から普通のパンツへの移行が出来た方もいる。	一人ひとりの排便パターン把握と仕草や行動変容への気付きにより、タイミングを考慮しながらの声かけ誘導に取り組んでおり、トイレでの排泄支援に繋がっています。衛生面への配慮と羞恥心を大切に、個の状態に合った援助の実践と、トイレでのパット・リハビリパンツ交換が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は他の病気につながる事が多く、1日でないと注意しており、医師とも十分に相談しながら、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人が入りたいと思った時に入れるよう対応している。	充足に繋がる入浴において、個の状態(体調・思いの流れ)の周知と、チーム力を活かした支援、臨機応変な対応が行われています。職員との会話や、リラックス出来るくつろぎ感を楽しめる時間づくりと介護の容易さとの比例関係にも着目しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬を管理できる利用者はいない状況で、ホームで管理・提供している。誰が見ても間違いなく提供できるように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	欲しいものがあれば買い物に行き、誕生日は本人の好物を提供する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は当施設の特徴であり、多く実施している。また、誕生月には家族・本人・職員と一緒に外出・外食を行っている。	個々の気持ちを大切に援助に繋げており、専用車両を用いた毎月2回程の遠方へのドライブでは季節感の趣きを、個別対応(自宅訪問・買い物)では折々の思いに触れた支援に取り組んでいます。気分転換の抱ける和やかな暮らしを支えています。	居住地区でのサロン参加を実践するなど、施設所在の地域枠を広げた前進的な活動支援が行われています。個々の利用者と居住地域との関係づくりにおける広域的な地域連携と外出支援への取り組みに、一層の期待が持たれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状況・家族との話し合いによって可能にしている。日常のお菓子等の買い物は希望で可能にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由にできる。手紙や年賀状も送れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に工夫している。	利用者間のコミュニケーションを大切に、職員間のチームワークによって安心感と安全・衛生に配慮しつつ、くつろぎ感と楽しい生活が可能な環境設定への改善の取り組みを日常的に意識しています。和める共有空間づくりへの実践に繋がっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者性格・好み等を十分理解し、本人のその時に合わせた工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に本人の状況に合わせて工夫している。	居室の支援の有り方の基盤として、個々の想いの尊重を大切に、利用者が家にいる時と同じ様に自由にゆったりと過ごせる・安心してくつろげる雰囲気づくりに取り組んでいます。居室の整理との兼ね合いの、工夫への考慮の姿勢が伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的な環境を崩さないよう、安全に過ごせるように工夫しているが、必要以上にバリアフリーにならないようにも工夫している。		